

令和7年度第5回宇陀市総合計画審議会

日時：令和8年2月25日(水) 午後3時00分～

場所：宇陀市榛原総合センター 3階大ホール

1. 開会

出席 19名 欠席 1名

市長あいさつ

金剛市長：

本日は、皆さまにご尽力いただきまとめている第2次宇陀市総合計画後期基本計画の最終確認の場である。この機会に市長として感謝を申し上げる。

1年前の令和7年2月19日に伊藤会長へ策定について諮問した。各委員はご多忙の中これまで様々なご意見・ご検討をいただき感謝する。ご承知のとおり、宇陀市を取り巻く状況は厳しいが、失敗を恐れて縮こまることなく、総合計画を宇陀市の指針として、課題解決に向けた挑戦を続けてまいりたい。

先日の市制20周年の式典において、課題が多いということは、それだけチャレンジする機会があるということをも市民の皆さまに申し上げた。また、来賓の祝辞では、「若者・女性をはじめとした誰もが地域で健康に住み続けられる社会の実現を目指してほしい」というコメントをいただいた。

多くの方からいただいたキーワードが「挑戦」である。宇陀市としては、高齢化が進行する中で、全国に先駆けて「認知症の不安ゼロのまち」の実現への挑戦を始めている。宇陀市は、健康で豊かな暮らしを多くの方が望む中で、将来の不安に対して課題解決に挑戦するまちを目指してまいりたい。また、4月には「こどもまんなか社会」の実現に向けて、榛原こども園・こども家庭センターができる。宇陀市は、総合計画に基づき、高齢者から子どもまで俯瞰しながら、それぞれの方に効果的な施策に取り組んでいきたい。

引き続き、今後のPDCAにおいても伴走していただき、宇陀市民の健康で豊かな暮らしの実現に向け、ご支援いただきたい。

どうぞよろしく願います。

2. 後期基本計画（案）の確認について

- ・後期基本計画（案）の確認について

【資料1】 事務局より説明

伊藤会長

最後の審議会であるので、各委員から一言ずつコメントをいただきたい。

小浦委員

個人的な意見として、まとまったなと感じている。総合計画として市政に関わる全ての施策が位置づけられている。これからの施策は単独ではできない。午前中に都市計画審議会に出席したが、都市だけでなく農村地域や集落を含めた、市全体の暮らしのネットワークを踏まえて都市計画を考える必要があると感じた。20 世紀的な成長期の施策から転換し、持続可能な地方の暮らしを実現していこうという中で、本計画に記載されている様々な施策が上手く連携していく仕組み作りが今後は重要になる。総合計画を推進する仕組みや体制を今後は充実していただきたい。

杉本委員

がむしゃらに頑張るのではなく、方向性を明確に示していただくことが重要だと考えている。今後は、この方向性を具現化するための具体策が重要になる。実効性が伴わなくては意味がない。市長をはじめ皆さんで総合計画の具現化に取り組んでいただきたい。

辻本委員

素晴らしい計画になったと感じている。PDCA という話があったが、他の計画では検証から見直しのサイクルが遅いことがある。今後に向けては、素早いフィードバックを行いながら計画を進めていただきたい。

大門委員

計画書内に「安心」という言葉が用いられていることが印象的であった。行政が市民に「安全」だけでなく「安心」してもらいたいという意図を感じる。ぜひこの安心なまちづくりを具現化いただきたい。

巽委員

初参加であるので、簡単に拝見した感想である。本日は5回目であるので、これまでの審議会でも様々な議論を経た結果であると思うが、宇陀市の現状を踏まえた計画になっていると感じる。引き続き推進をよろしく願います。

西田委員

良い資料にまとまったと思う。質問だが、人口が2040年に約16,000人に減少すると推計されている。これを20,000人にしていくことを目標にされるということである。この人口ビジョンの達成に向けて現状でどの程度の進捗しているか伺いたい。

事務局（勝村政策推進部長）

P28 に将来人口 20,000 人の目標を掲げている。令和 7 年度に国勢調査があったが、25,000 人はキープできていると考えている。人口増減には自然増減と社会増減があるが、社会増減の減少幅は想定よりも抑制されていると感じている。

国の指針として、これからは人口の取り合いにならないようにしていくことが示されている。これを踏まえ、後期基本計画では、これまで移住を推進する取組を重視して来た方針を転換し、宇陀市で住み続けている方や事業者の支援に注力して宇陀市の魅力を高めることで、宇陀市に転入したいと思う移住者の呼び込みに繋げていきたいと考えている。

この総合計画に基づく施策は来る 3 月議会にて予算案をお示しし、審議いただく予定である。将来人口 20,000 人の目標を達成するため、市民が主役のまちづくりを進めていく。

現状に関しては、昨年度の国勢調査の結果を踏まえて、施策の具体化につなげていきたい。

中西委員

P66 の施策 2-4 「災害に備えた安全・安心な暮らしの実現」について、社会福祉協議会では、今後南海トラフ等の大きな災害が起こった場合の対応が課題と感じている。先日、桜井市の社会福祉協議会と合同で防災訓練をしたところだが、高齢化が進み、現場での対応力が低下している実情がある。社会福祉協議会としては避難誘導や災害復旧の支援者に対して案内をするなどの役割を担っていききたいと考えている。特に高齢者の逃げ遅れに対する避難誘導を実施していきたい。

福山委員

前期基本計画から携わっているが、今回が一番見やすい資料であると感じている。この計画をもとに社会課題の解決や人材の育成を進めていく必要がある。この資料をどのように市民に届けようと考えているか伺いたい。中期基本計画の策定時は概要版を配布されたと思う。総合計画の存在を知らない市民が多いことは非常にもったいないと感じている。

事務局（田中企画課長）

計画の周知方法について、中期基本計画策定時と同様に概要版の作成を予定している。5 月広報に織り込み、全戸配布を実施したいと考えている。

ただし、それだけでは足りないと考えている。後期基本計画策定時に実施したアンケートでは、総合計画の認知度が低いことが明らかとなった。特に名前は知っていても内容までは知らない方が多かった。この内容をどのように伝えていくかが課題である。

アンケート調査実施時には「うだちゃん 11」にて市長出演のもと、総合計画の概要や役割等を紹介するビデオを放映したところである。この効果であるか分からないが、市民アンケートの回収率は中期基本計画策定時よりも向上した。

今後は、特に若い方に内容を知ってもらうことも考え、LINE、Facebook、Instagram 等の

各種媒体を用いながら広く周知を図っていききたい。そして、行政と市民が一体となって計画を進める体制づくりを進めていききたい。

事務局（勝村政策推進部長）

P99の施策6-1-1に「市民との双方向コミュニケーションを推進します」という施策を位置づけている。これからは行政からの一方向だけでなく、市民との双方向のコミュニケーションを図っていく。市民の中にも他の市民に伝えていただけるような方がでてきて、口コミで伝わるような形になれば最も浸透すると考えている。

丸岡委員

審議会の意見をよく取り入れた分かりやすい資料ができたと感じている。この内容を市民にどのように伝えるかが課題と感じている。市民も忙しい中で資料を全て読み込む時間がないのではないかと思う。いまの事務局の答弁を伺って安心した。市民の中で口コミにより伝わっていくことが大事であると感じる。

奥田委員

資料が読みやすくなったと感じている。自身が分かっていなかったことへの気づきも感じられ、幅広く読んでいただける資料になったと思う。

P106の用語集については、本編のフォントと異なっており、老眼の方には読みにくく感じる。本編のフォントは読みやすいため、変更が可能であれば本編のフォントに合わせて修正いただきたい。

事務局（田中企画課長）

用語集は、今後それぞれの文言が出現するページの脚注に追加する予定である。その際には、なるべく市民の皆さまに見やすいフォント等で追加していく。

奥田委員

福祉事業者に関わる中で、今では困りごとがあると福祉部門の担当者に相談することが多いが、今後は福祉だけでは解決しないと考えている。例えば移動に困っている場合に、本人に問題があれば福祉で解決できるが、バスが無いなどの問題は福祉では解決できない。

これらの課題に対し、関係各課や事業者・市民を巻き込んでアイデアを出し合いながら施策を進めていただきたい。計画を推進する中で、行政の縦割りを乗り越えて広い視点でまちづくりをしていくことを期待したい。

また、宇陀市だけでは解決できないこともあると思う。例えば宇陀市内には産科がなくなった。奈良県から出ないと受けられないサービスも出てきていると思う。このような幅広い視点で取組を進めていただきたい。

山田委員

情報発信を行う際は、フェイクニュースの拡散などには注意いただきたい。先日の衆議院議員選挙ではフェイクニュースが出回ったと聞いている。

市民全員が満足することは不可能と思うが、一つ一つの説明は丁寧にしていきたい。

私は認知症の方の支援に関わっているが、例えば、災害時に宇陀市の施設に認知症の方が避難されたときに、BCP のとおりに職員が対応できるかが直近の課題と感じている。災害が発生する可能性が高まる中で、こうした課題の対応も一緒に考えていければと思う。

長相委員

後期基本計画の施策の文末の表現をみると、「～を図ります」「～推進します」「～充実します」など様々な内容が記載されている。今後 PDCA を進めていく際に、どのような状態になれば施策が進んだと言えるのか、数値目標との関連性を整理いただきたいと思う。

片岡委員

人口減少はどの市町村も同じだが、今の人口や次の世代が減るといのは大きな課題である。それを維持するためには雇用を維持する必要がある。企業を誘致するためには交通の整備も重要であり、そうした部分に注力いただきたい。また、計画策定後の進捗管理をしっかり進めていただきたい。

吉本委員

医療・子育て・交通・空き家など市民の課題に感じている分野が反映された計画になったと感じている。今後の運用にあたっては、幅広の分野の中のどこから着手していくかが分かると市民は安心すると考える。また、市民が実感できる小さな変化から進めていけると、計画が進んでいるということを市民が実感しやすいと思う。

大西委員

市の基本的な計画として、総花的に記載いただいている。計画作って終わりではなく、PDCA をしっかりしていくのが重要である。これも取りまとめに注力するのではなく、庁内の風通しを良くして議論いただくのが重要と思う。また、市民との双方向のコミュニケーションも大事であると感じる。

また、4年間の計画期間の中で、社会情勢の変化に対応していくことも重要である。4年間の中でどこに重点を置いていくのかを考えながら柔軟に計画を推進いただきたい。

県も、4月に南部東部振興基本計画と過疎地域持続的発展計画を策定する予定である。県としても様々な計画が動き出す。東部地域の拠点都市である宇陀市とも連携していきたい。

福野委員

市長の冒頭の挨拶で「課題はチャンスである」という発言があったが、私も同感である。また、「挑戦をし続けることが重要」との発言があった。これを進めていくためには、マネジメントや進捗管理も大事だが、誰かがリーダーシップを取っていく必要がある。マネジメントだけでは挑戦し続けることが難しくなる。挑戦をし続けていくしぶとさが重要であり、そうした人を応援していただきたいと思う。

下村委員

かなり良い計画になったと感じる。各課で連携して実行していただきたい。絵に描いた餅にならないようよろしくお願いします。

井上副会長

審議会を通して各委員の意見を伺いながらやっと全体像が分かってきたところである。各委員はそれぞれの分野のエキスパートであるが、専門外の分野では十分に理解できていないところがあると思う。概要版を作成するということが、全体を薄くしては薄い資料になってしまう。それぞれの分野の方に協力いただき、狭く深い情報提供をしてはかがか。よろしくお願いします。

伊藤学長

各委員におかれては急なお願いにも関わらずコメントをいただき感謝する。また、計画をまとめ上げた事務局とサポートに当たったコンサル事業者にお礼を申し上げる。

大事なことは市民が自分事に感じられるかどうかである。市民は自身に関わることには関心があるが、その他の分野には関心がない。各分野別の少し詳しい版を作ることや、簡略版を作成する際に、一般市民向けとは別に小中学生向けを作成するのも一案である。

また、以前副市長より12年という計画期間は長すぎるという発言があった。今の時代の変化のスピードを考えると12年という計画期間は見直す方が良いと考える。どの程度の期間が良いか、8年なのか、10年なのかは分からないが、次の計画を作る際には検討いただきたい。今後はAI社会の進展などにより、市民生活が変化していくであろう、ということも踏まえて検討いただきたい。

まずは後期基本計画にしっかり取り組む、チャレンジするということが大事である。そして、各委員からコメントのあったとおり具現化して、市民に安心いただくことも大事である。

また、計画が分かりやすくなったことも非常に重要である。事務局及びコンサル事業者の尽力に感謝する。

計画案の確認については以上とする。

引き続きパブリックコメントの内容について紹介いただきたい。

3. パブリックコメントについて

・パブリックコメントについて

【資料2】 事務局より説明

伊藤会長

6名の方から非常に濃いご意見をいただいた。それだけ熱心に読み込んでいただいたということと思う。後期基本計画の修正が必要な内容ではないが、個別施策への言及が多いので、その点は各施策を推進する中で反映いただくということと思う。

令和7年2月10日に市長より諮問を受け、6回の審議会で経て各委員と議論を深めてお手元の冊子が出来上がったところである。残りの微修正は会長の確認とし、この内容で答申するということが良いか。

一同

異議なし。

伊藤会長

この内容で答申する。

4. その他

事務局（田中企画課長）

後期基本計画は本日の内容を基に最終調整を行い、後日市長に答申をいただく。最終的な内容は皆さまに送付するのでご確認いただきたい。また、先ほど申し上げたとおり、5月広報にて製本した概要版を全戸配布させていただく。

副市長あいさつ

鴻池副市長

委員の皆さまには計画策定に際し、公私ご多忙の中、何度も足をお運びいただき感謝する。皆さまの貴重なご意見、ご提案により宇陀市の未来に対する重要な指針を策定することができた。

総合計画の策定にあたり、宇陀市の様々な課題を目の当たりにし、住民一人一人の視点に寄り添う難しさを実感した。また、伊藤会長よりご指摘があったとおり、12年間という計画期間の長さ故の難しさがあり、8年前に策定したKPIが今の状況に合わないという点もあったが、皆さまのご意見により、より充実した計画ができたと考えている。こうして完成した計画は宇陀市の今後の地域自治の基盤になるものと確認している。

今後は、この計画の実現に向けた取組を進めていく。その過程においても、引き続き各委員の協力を賜りたい。

改めて委員の皆さまに感謝を申し上げますとともに、皆さまの一層のご活躍、ご健勝を祈念してお礼とさせていただきます。

以上